

# オンライン研修ってなに？

～メリットから注意点・成功させるコツまで  
全部おしえます～



# CONTENTS

目次

## ■ 第一章

オンライン研修とは／オンライン研修に向いている企業の特徴

## ■ 第二章

オンライン研修のメリット・デメリット／必要な環境とツール

## ■ 第三章

なぜ、オンライン研修が注目されているのか。今後の方向性とは？／  
オンライン研修のコツ・成功するポイント／KnowledgeDeliverの紹介

# はじめに

オンライン研修の利用が爆発的に増えています。新型コロナウイルスの影響でテレワークが推奨されたことがきっかけとなり、教育機関における“遠隔教育”や組織（企業・官公庁など）の“社員教育”にオンライン研修を活用するケースがこれまで以上に増加したことが背景にあります。

しかし、オンライン研修を利用しようと思っても、システムは数多くあり、機能も様々「どの製品・サービスが自社・自校に合うのかわからない」という声をよく聞きます。

そこでデジタル・ナレッジでは、本資料を含むホワイトペーパーの資料にて、オンライン研修の導入を検討されている、もしくはご利用中のシステムの変更を検討されている組織・教育機関の皆さまに向けて、基礎知識や導入のポイントを分かり易く解説いたします。オンライン研修の選定にお役立ていただきたいと思います。

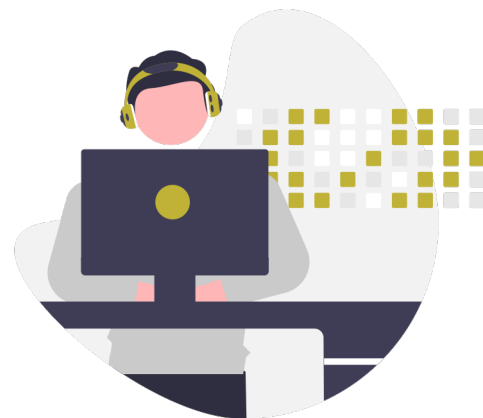
# 第一章

～オンライン研修とは／  
オンライン研修に向いている企業の特徴～

企業の人材育成において注目される「オンライン研修」。  
以前からeラーニングなどの名称で一部の企業にて活用されてきましたが、2020年、新型コロナウイルスの感染拡大で実施が難しくなった対面研修の代わりにオンライン研修のニーズが急速に顕在化しました。  
ここでは、改めてオンライン研修とは何か？というところから、オンライン研修のメリット、今後オンライン研修を実施していく上でのポイントをまとめて紹介していきます。

## オンライン研修とは？

オンライン研修とはインターネットを介して行なわれる研修の総称です。研修を受ける人はパソコンなどの端末とネット環境さえあれば、どこにいても研修を受けることができます。  
オンライン研修の主な形式としては、“オンデマンド型”と“ライブ配信型”の2つを押さえておくといよいでしょう。





## オンデマンド型

あらかじめ録画された動画コンテンツやスライド型の教材を配信するのがオンデマンド型のオンライン研修です。

双方向のコミュニケーションは取れませんが、受講者はいつでも好きなときに研修を受けることができます。何度でも繰り返し受講できるため、事前学習や復習ツールとしても有効です。



## ライブ配信型

講師による講義を生中継するのがライブ配信型のオンライン研修です。

受講者は本社や研修場所に出向くことなく、地方拠点や海外、あるいは自宅などにいながらリアルタイムで研修を受けることができます。決まった時間に参加する必要がありますが、質問やディスカッションといった、講師と受講者、受講者同士の双方向でのコミュニケーションが可能です。

2020年のコロナ禍においてテレワークが進み、会議や打ち合わせの多くがオンライン化されたことに伴い、ZoomなどのいわゆるWeb会議ツールを利用して手軽に行うライブ配信型のオンライン研修も増えています。詳しくは、次々項目のオンライン研修に必要な環境・ツールで解説します。

# オンライン研修に向いている企業の特徴

オンライン研修を導入した方が良い企業には次のような特徴があります。

- コロナの影響を受け、集合研修の見直しを迫られている企業
- テレワークや働き方改革の推進を検討している企業
- 教育研修や人材育成の効率化を図りたい企業
- 人材やスキルの多様化に対応可能な自学自習の仕組みを構築したい企業
- 複数拠点やシフト制勤務などの理由で集合研修の定期開催がむずかしい企業

上記に該当する企業では、オンライン研修の導入のメリットは大きいと考えられます。次の項目では具体的なメリットと注意点を確認していきましょう。

# 第二章

～オンライン研修のメリット・デメリット／必要な環境とツール～



# ICT教育のメリット

多くの企業で導入が進むオンライン研修。オンライン研修には企業側、社員側双方にとって多くのメリットがあります。

## 研修を効率的に実施できる

集合研修は決められた時間に1つの場所に集まって行う必要がありますが、オンライン研修は時間・場所にとらわれずに実施することができます。移動の時間がカットできるのもメリットです。また、参加人数の制約がなく、会場を準備する必要もないため、大規模研修も従来ほどの工数がかかりません。企業の生産性向上にもつなげる効率的な研修は、企業側、受講者双方にとって大きなメリットといえるでしょう。

## コスト削減

会場費や講師費、社員の移動にかかる交通費や宿泊費などがカットできるため、これまで集合研修にかかっていたコストを大幅に削減できる可能性があります。とくにオンデマンド教材は何度でも繰り返し利用ができるため、イニシャルコストはかかりますが長期的には運営費用を低く抑えることが見込めます。

## 研修機会や研修の質を均一化できる

勤務時間が不規則な社員や遠方で働く人、中途採用者など、対面型の研修ではなかなか対応が難しかったケースもオンライン研修なら均一な学習機会を提供できます。同一教材で学べるため勤務地や講師による差が生まれにくく、教育の質が均一になる点もメリットです。一方、社員側からは「集合研修では人の目が気になって手が挙げられなかったがオンラインならチャットで質問がしやすい」といった声もあり、対面研修ではむずかしかったことが可能となっています。

## 研修管理の効率化

これまで手作業で行っていた受講者の出欠や受講状況、成績などの管理を、オンライン研修ならシステム上ですべて一括管理することができます。たとえば、研修を受けていない人や成績が一定に達しない人を抽出し、研修受講を促すといったことも簡単にでき、研修管理の工数を大幅に削減できます。決まった時間に動画を配信したり、受講集計なども自動で行えるため、運営業務の負担が少ないのもメリットです。

## 集合研修との組み合わせで教育効果を上げる

集合研修の事前教育や事後テスト、内定者向けの入社前教育にオンライン研修を活用することにより、教育効果を高めることが可能です。たとえば、新人研修において必須となる一般マナーなどは、その多くの部分をオンライン研修で代替することができます。オンライン研修であらかじめ基礎知識をインプットした上で集合研修やOJTに臨めば、ディスカッションやロールプレイングといった応用の時間を拡充することができ、研修をより効果的にアップデートすることができます。



## 企業側から見たオンライン研修・集合研修のメリット・デメリットまとめ

	メリット	デメリット
オンライン研修 (オンデマンド配信)	<ul style="list-style-type: none"><li>• 研修品質の均一化を図れる</li><li>• すべての社員の学習履歴を一括管理できる</li><li>• 社員一人ひとりに最適な教材・コースを提供できる</li><li>• 導入以降のコストを削減できる</li><li>• 教材の修正、アップデートが常時可能</li><li>• 最新の教材を全学習者に一斉配信できる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 教材を作成する手間やコストがかかる</li><li>• 教材配信や学習管理のためのシステム（LMS）が必要となる</li></ul>
オンライン研修 (ライブ配信)	<ul style="list-style-type: none"><li>• リアルな対面研修に準じた教育を提供できる</li><li>• 会場に来ることができない社員にも研修を提供できる</li><li>• 研修品質の均一化を図れる</li><li>• 双方向の研修が実現できる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• ライブ配信のためのシステムが必要となる</li><li>• オンライン研修ならではの講義の進め方や講師のスキルが求められる</li></ul>
集合研修 (対面研修)	<ul style="list-style-type: none"><li>• 双方向の研修が実現できる</li><li>• グループワークやロールプレイングを実施しやすい</li><li>• 技術教育など実技を伴う研修に向いている</li><li>• 受講者の反応を見ながら研修を進めることができる</li><li>• 社員間の交流など副次的な効果が期待できる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 受講者の交通費や宿泊費、会場費、講師費などのコストがかかる</li><li>• 会場設備の準備が必要</li><li>• 会場によって人数制限がある</li><li>• 受講者のスケジュールを合わせる必要がある</li></ul>

## 社員側から見たオンライン研修・集合研修のメリット・デメリットまとめ

	メリット	デメリット
オンライン研修 (オンデマンド配信)	<ul style="list-style-type: none"><li>• 場所を問わず研修を受講できる</li><li>• 苦手箇所を繰り返し視聴するなど自分のペースで受講できる</li><li>• 正誤判定・採点の自動化で結果が即座にわかる</li><li>• 学習履歴や学習進捗が可視化されわかりやすい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• わからないところがあってもその場で質問ができない</li><li>• 実技がともなう研修には不向きである</li><li>• 社員間の交流が図りにくい</li><li>• インターネット環境とパソコン・スマホなどの端末が必要</li><li>• 強制力がないので自主的に学習する意欲が求められる</li></ul>
オンライン研修 (ライブ配信)	<ul style="list-style-type: none"><li>• 会場に出向かなくても臨場感ある研修が受けられる</li><li>• 質問をする、発表をするなど受講者側からのアクションが可能</li><li>• ディスカッションなど複数の社員で学び合うことも可能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 実技がともなう研修にはやや不向きである</li><li>• インターネット環境とパソコン・スマホなどの端末が必要</li><li>• 時間が決まっているので合わせる必要がある</li></ul>
集合研修 (対面研修)	<ul style="list-style-type: none"><li>• インターネットやパソコンに詳しくない人でも抵抗なく受講できる</li><li>• 質問をする、発表をするなど受講者側からのアクションが可能</li><li>• ディスカッションなど複数の社員で学び合うことも可能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 時間が決まっているので合わせる必要がある</li><li>• 遠方の社員や忙しい社員にとっては参加のハードルが高い</li></ul>

# オンライン研修に必要な環境・ツール

オンライン研修を始めるとき、企業側で最低限必要となる環境は次の通りです。

- ✔ 学習管理システム（LMS: Learning Management System）
- ✔ Web会議ツール（Zoomなど）
- ✔ 教材・コンテンツ
- ✔ インターネット環境





学習管理システム(LMS)はオンライン研修を実施する際のベースとなるシステムで、eラーニングシステムと呼ばれることもあります。

Web会議ツールがあれば手軽にライブ講義などのオンライン研修を行うことができます。

さらにブレイクアウトセッションという機能を使えば、受講者同士のグループワークやディスカッションも可能です。ただし、Web会議ツールを単体で使う場合、学習履歴などのデータが残らず、系統立てた教育研修にはすこし弱い部分がありました。そこで最近では、学習管理システムとWeb会議ツールを組み合わせた新しいオンライン研修が注目されています。

そしてオンライン研修に欠かせないのが動画教材やテストなどのコンテンツです。オンライン研修の実施が広がるなか、自社オリジナル教材を作成、使用する企業が増えています。教材の内製化には予想以上の手間と時間がかかりますが、最近ではパワーポイント資料をアップロードするだけで教材が完成するなど簡単にコンテンツを作成できる機能を備えたLMSもあります。

さらにもうワンランク上のオンライン研修を目指したい方は、次のような機材を揃えるとよいでしょう。

-  **外付USBカメラ**：PCに内蔵されているカメラとは画質も視野角も雲泥の差。
-  **スイッチャ**：複数のカメラと音声を自由に切り替えたり、画面上に複数のアングル（カメラ撮影している講師＋教材など）を映し出したりすることができる。
-  **キャプチャ**：画面録画をするためのソフト。PC画面や音声だけでなく、マイクの音声やカメラの映像も同時録画できるものもある。
-  **マイク・照明**：音声や照明もオンライン研修のクオリティを左右する重要なポイント。

受講者側の環境としては、Web会議ツールがインストールされたPCやヘッドホン、インターネット環境があれば受講可能です。

# 第三章

～なぜ、オンライン研修が注目されているのか。今後の方向性とは？／  
オンライン研修のコツ・成功するポイント／KnowledgeDeliverの紹介～

# なぜ、オンライン研修が注目されているのか。 今後の方向性とは？

国内におけるオンライン研修の始まりは、今から約20年前、eラーニング元年といわれた2000年前後にさかのぼります。一部の先進的な企業が社内教育にeラーニングを導入し、Microsoft OfficeなどのITリテラシ教育や会社のルール、代表の訓示・経営方針を伝達することからスタートしました。

黎明期のオンライン研修を支えたのは、インターネットのブロードバンド化です。手頃な価格の大容量インターネット接続サービスが登場し、従来のダイヤルアップ接続とは比べものにならない高速・大容量通信の基盤が整いました。その後、動画コンテンツやスマートフォン・タブレットなどスマートデバイスの普及を経て、オンライン研修は企業における人材育成シーンで存在感を増していきます。

そして、この流れを決定的なものにしたのが2020年、世界的に広がった新型コロナウイルスの感染拡大です。国内では初の緊急事態宣言発令が新卒の入社時期と重なってしまったことから、これまで通りの対面の新入社員研修を実施できなくなった企業が続出しました。在宅勤務が増えるなか、現場に配属しOJTを実施するわけにもいかず、従来の人材育成の在り方が大きく崩れてしまったのです。そこで注目されたのがオンライン研修です。



eラーニング戦略研究所の最新の調査によると、6割以上の企業がコロナ後にオンライン研修を緊急導入しています。また、すでにオンライン研修を導入していた企業ではその適用範囲を拡大するなど対応に追われました。

とはいえ今後、企業研修のすべてがオンラインに切り替わることは考えにくいでしょう。直接顔を突き合わせて行う対面型研修は社員同士の交流を深め、関係構築に役立ちます。対話や刺激を生みだし、建設的な発想やイノベーションの創出も期待されています。

そのため、今後は集合研修とオンライン研修のハイブリッド（=ブレンデッドラーニング）が主流になるものと考えられます。対面型研修とオンライン研修のそれぞれのメリットを活かせるよう、目的に応じた使い分けや研修設計が大切です。



# オンライン研修を実施する際のコツ・成功するポイント

オンライン研修を効果的に実施するためにはどういったポイントに気をつけるべきなのでしょうか。

## ①事前準備をしっかり行う

オンライン研修を円滑に進めるために欠かせないのが事前準備です。ネットワークの接続確認、PCやWeb会議システムの設定、カメラ・マイクの動作チェックなどを、余裕をもって実施しておきましょう。とくに受講者が在宅の場合、自宅の通信状況によって通信トラブルが発生してしまうケースが多々見受けられます。また受講者側のデバイスによっては、配布された資料が開けないこともあります。トラブルが起きてしまうと他の受講者を待たせることになり、最悪の場合は予定していたオンライン研修を実施できなくなってしまいます。こうしたことがないように、あらゆるリスクを想定して入念な準備をしておくことが大切です。

## ②テンポよくメリハリのある進行を

1人で受講するオンライン研修は、思った以上に集中力が続かないものです。10分講義をしたら次の10分は受講者に発表してもらおうなど、受講者を飽きさせないテンポのよい進行を心がけましょう。また、画面越しのオンライン研修では対面とはひと味違った講義の進め方や講師側のスキルが求められます。講師や進行役のスタッフはいつもよりテンションを上げ、明るくはきはきした話し方、メリハリのある進め方を率先して実践しましょう。このあたりは再生回数の多いYouTubeなどを参考にしてみてもよいかもしれません。

### ③ 双方向性でオンライン研修の効果を高める

---

オンライン研修では一方通行にならないようなインタラクティブな工夫が必要です。たとえば、オンデマンド型であれば動画の途中でクイズやミニテストを差し込んで受講者の理解度を把握しつつ知識定着を図ったり、ライブ配信型であれば講義の途中でグループディスカッションをはさんだりチャットでの質問対応を充実させる、といった具合です。受講者側からのアクションが可能な双方向性はオンライン研修の効果を高めるのに効果的です。受講後のアンケートやレポート提出なども上手に活用してみてください。

### ④ 研修の一元管理で運用も効率化

---

今後は集合研修とオンライン研修を組み合わせた“ハイブリッド型の研修”が主流になっていくと予想されます。このとき、学習管理システム（LMS）を使って集合研修とオンライン研修の双方をシームレスに一元管理できれば、より系統立てた教育プログラムの実施や効率的な運用が可能となります。最近ではWeb会議ツールのライブ配信コンテンツをコース内に取り込み受講管理を行ったり、人事データベースと連携してユーザ登録管理を自動化している例もあります。こうした機能を使いこなし、さらに効率的なオンライン研修の運用を目指しましょう。

# KnowledgeDeliverの特徴

1. 映像教材など動的でわかり易い教材を脅威の手軽さで作成可能
2. マルチブラウザ・OS対応で、スマホ・タブレットなど多種多様な学習スタイルに対応
3. 「使いやすさ」と「多機能性」の両方を追求した運用管理機能
4. ASP、クラウド、パッケージなど豊富な導入形態をご用意
5. 定期的なバージョンアップで新機能追加と最新クライアント環境に対応
6. ご要望に応じた柔軟なカスタマイズ対応
7. 数十万名様向けの大規模運用対応
8. 第三者機関による脆弱性診断・検査の定期受診による万全のセキュリティ対策
9. プライバシーマーク®、ASP・SAAS安全・信頼性情報開示認定済み
10. サポートセンタによる安心の運用サポート体制

# KnowledgeDeliverが選ばれる理由

## 選ばれ続ける8つの安心



### これ一つで完結

eラーニングに必須の「教材作成」「学習」「運用管理」機能を標準搭載。他のツールをご用意いただく必要がありません。



### マルチデバイス対応

PCはもちろん、スマートフォン、タブレットでも学べるマルチデバイス対応。スマホで動画配信も可能です。



### 年4回のバージョンアップ

お客様のニーズやトレンドに合わせた新機能追加、最新クライアント環境に対応。新しいLMSを提供し続けています。



### 2000以上の導入実績

企業・官公庁・医療機関など実績多数。売上拡大も効率化もコスト削減も、各分野に精通した専門部署にお任せください。



### ご要望にあわせたカスタマイズ

課題や目的が違えば導入すべきeラーニングの形も異なります。お客様の要望にあわせた柔軟なカスタマイズが強みです。



### 豊富な導入形態・大規模運用

ASP、オンプレミス、DKクラウド、パブリッククラウド等、豊富な導入形態をご用意。数十万名様向けの大規模運用にも対応。



### 安心の運用サポート

運用ご担当者様や受講者様向けにサポートセンタを設置。電話、メールによるサポートでより円滑な運用をサポートいたします。



### 個人情報保護・セキュリティ対策も万全

KnowledgeDeliverを基盤としたASPサービス「ナレッジデリ」では「ASP・SaaS安全・信頼性情報開示認定」を受けています。

皆さまからのご連絡をお待ちしております

### メールで質問

infoadmin@d-k.jp

### 電話で質問

導入の  
ご相談 **050-3628-9240**

その他 **03-5846-2131**

### サイトを見る

デジタル・ナレッジ

検索